

●今月の「ONLINE」情報●

デンキのお仕事 ～⑤ ミカド金属(前編)～

当社と創業者が同じである株式会社ミカド金属（金属のリサイクル業）の正木社長にお話を伺いました。



株式会社ミカド金属 正木睦彦社長

電線だってリサイクル

編集部：金属のリサイクルをされているということですが、どんな金属を扱っていらっしゃるのですか？

正木：当社は、非鉄金属が主力です。メインは電線の銅ですが、銅の合金（真鍮、砲金等）やステンレス、アルミニウム、鉄、鉛やそれらが混在している金属も含め、様々な金属を扱っています。

編集部：使用済みの電線はリサイクルされるんですね。

正木：はい。当社は主に会社や工場の解体現場から出る不要になった電線や、建物の新設、改修工事から出る余った電線などを買い取り、銅を分別して再利用に適した形状に加工してメーカーや商社に納めています。

編集部：再利用に適した形状とは？

正木：一次破碎、二次破碎を経て最終的にはナゲットと呼ばれる粒状の銅片になります。いくつか細かい工程がありますが、効率よく銅を回収するには、技術と経験が必要ですね。

編集部：銅線を切断し、更に細かくするんですね。

正木：はい、これが実物のナゲットです。時間が経って少し酸化していますが、実際はもっとピカピカしています。



銅のナゲット。ひと粒が長さ5mm程度、重さはこの容器二つで約1.4kgあります。ずっしりと重いです。

正木：以前は剥線機（はくせんき）といって、短く切断した電線を、一本一本手で機械に差し込んで被覆を剥いでいたんです。剥線機は被覆を剥いだ時に、その場でその都度仕分けができますが、今の機械は一度投入してしまうと全部が交ざってしまいます。品質によって価格にも影響が出てくるので、前段階の仕分けがとても重要になってきます。被覆材も変化して多様化していますが、きちんと分ければリサイクルできる被覆材も多いですね。

編集部：被覆材もリサイクルされるんですか？

正木：塩ビ材はチップで回収したものをそのまま溶かして再利用します。路盤材とか塩ビのシートに使われています。

リサイクルされた銅は“どう”なる？

編集部：ではメインの銅のほうは、どのように使われるのですか？洒落じゃないけど、銅は“どう”なるのか気になります(笑)

正木：当社で加工処理された銅は商社を通して各メーカー様に納入されています。株式会社コベルコマテリアル銅管様、株式会社原田伸銅所様やその他の会社様など、直接納入しているメーカー様もあります。例えば、コベルコ銅管様は銅精錬から加工販売までを一貫して行う日本最大の銅管専門会社ですが、当社の納入先の秦野工場では、空調用、給水給湯用の銅のパイプを生産しています。

編集部：なるほど。エアコンや水回りの配管になるんですね。

正木：あとは、伸銅（しんどう）メーカーと呼ばれる、銅箔をつくる会社様。銅箔というのは、身近な例で例えると、携帯電話などの基盤に貼ってある薄い銅のシートみたいな部分ですね。

編集部：銅は耐食性があって導電率もよいので、色々な用途があるんですね。

正木：そうですね。変わったところでは、塗料の中に銅粉をまぜてつくっているメーカー様もあります。船の下に塗る塗料に銅を混ぜると、底にフジツボが付かないらしいんですよ。自分もあまり詳しくは知らないんですが、そういう使い方もあるらしいんですね。

編集部：そうなんですか！驚きました。（つづく）

今月の雑学

ビアガーデン ~ビールは人を熱くする?~



日本のビアガーデンといえばビルの屋上が一般的ですが、ドイツのビアガーデンは大きな木の日陰で自然の中でゆっくりとビールを飲むのが定番です。ビアガーデンの起源

は、ドイツの醸造所が自慢のビールを飲んでもらうために敷地内につくったスペースが発祥ですが、これが地元の居酒屋さんのお客を奪ってしまったため大論争に。そこで1812年にバイエルン王ルートヴィヒ1世が“ビアガーデンでの食事の提供は禁止、ビールもセルフサービスで取に行く”という法律を作り、これがミュンヘンのビアガーデンスタイルになり今に至っています。日本で最初の屋上ビアガーデンは1953年に大阪市北区梅田でオープンした「ニュートーキョー大阪第一生命ビル店」です。日本では1940年東京都上野のビアホールで「泡が多すぎる」と客が抗議した事から、ビールの水増し（泡増し?）疑惑が起り検察に起訴されました。しかし、裁判で酒学の権威と言われた坂口謹一郎が「ビールの泡はビールよりもアルコール濃度が高い」と証明し、1944年『ビールの泡もビールと認める』と無罪の判決が下されました。爽快感がありさわやかなビールですが、熱い事は避け、皆で楽しく飲みたいものですね!

ミカド電装社員の
おすすめ

ただいまワタシのお気に入り



ハンドボール観戦

(営業部 Yさん/女性)



出典：トヨタ自動車東日本ハンドボールクラブ

ハンドボールは、1チーム7人(コートプレーヤー6人+ゴールキーパー1人)で行う競技です。「走る・跳ぶ・投げる」が基本的な動作で、ダイナミックなシュートシーン、スピーディーな試合展開が魅力の競技です。試合は前半30分・後半30分(ハーフタイム15

分)で行われるのですが、攻守の切り替わりが早く、1時間ほとんど走りっぱなしといっても過言ではありません。また、球技の中の格闘技と呼ばれるくらい、プレーヤー同士のぶつかり合いは本当に激しいです。(※)以前観戦した試合では選手の膝が顔面に入り、鼻骨骨折した選手もいました。。

個人的には、女子チームの試合観戦がオススメです。男子のパワフルさには劣ってしまいますが、堅実なディフェンスや、競っている時の得点の取り合いは、手に汗を握る緊迫感があり、観ていてとても熱くなります。宮城県には、トヨタ自動車東日本ハンドボール部という男子プロチームがあり、リーグ中は地元のフラッグ大郷21や、各地の会場で試合が開催されています。機会があれば、是非一度観戦してみたいいかがでしょうか?



POINT!!

宇宙でもがんばれ!

GSユアサのリチウムイオン電池「みちびき2号」に搭載

GSユアサグループの株式会社 ジーエス・ユアサ テクノロジー (GYT) 製の宇宙用リチウムイオン電池が、2017年6月1日に種子島宇宙センターから打ち上げられた、三菱電機株式会社製の「みちびき2号機」(準天頂衛星)に搭載されています。

準天頂衛星とは、地球上で特定の地域の上空だけを周回する人工衛星です。この準天頂衛星は米国のGPS衛星と一体利用することで、山間地や都市部のビル街でも高精度で安定した衛星測位サービスを実現し、実用化が期待される自動車の自動走行システムや測量、地震や火山の検知など、広範囲な用途への活用が見込まれています。GYT製の宇宙用リチウムイオン電池は、2000年代初頭に軌道



出典：準天頂衛星システムウェブサイト

ミカド電装商事株式会社



道上での宇宙実証が行われて以降、130機以上の国内・海外の宇宙機に搭載されてきました。その実績が評価され、現在運用中の「みちびき」(準天頂衛星初号機)に続いて、「みちびき2号機」および「みちびき3号機・4号機」にも採用されました。宇宙でも持ち前の高性能を発揮して、ぜひ頑張ってくださいね!

編集部より



梅雨の時期となり、少しずつ室内で過ごす時間も増えてくることでしょう。

ところで、6月が誕生日の甥っ子に誕生日プレゼントとしてドイツのボードゲームを買いました。日本語版も販売されているんですよ!

最近海外のボードゲームが密かに流行っており、ここ仙台でもボードゲームカフェのような場所もあるとか。

インターネットでも手軽に手に入るものもあるので、梅雨の時期にご家族、友人みんなで楽しめるボードゲームはいかがでしょうか。

(佐々木佳奈)

ミカド電装商事株式会社

TEL.022-256-8191 FAX.022-291-5403

〒984-0051 仙台市若林区新寺3丁目4-30

・ミカド電装 HP <http://www.mikado-d.co.jp/>

・大型リチウムイオン電池専用 HP <http://www.mikado-d.co.jp/cp/>

ミカド ONLINE

<http://www.mikado-d.co.jp/m-online/>

お届けした記事はネットでもご覧いただけます。

「ミカド ONLINE」で検索!!



編集：沢田元一郎・佐々木佳奈・笹崎久美子

※この配信サービスは無料です。※毎月1回の定期配信に加え、ミカド電装商事からのお知らせを不定期に配信する場合がありますので、あらかじめご了承ください。本レターの第三者への転送、Webサイトなどへの再掲載はお断りいたします。また「バックアップ」の著作権は、ミカド電装商事様およびその情報提供者に帰属するため、掲載記事を許可なく転載することは禁じます。